Solitude　Predator

九条　ネギ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
Ｓｏｌｉｔｕｄｅ　Ｐｒｅｄａｔｏｒ

【Ｎコード】
Ｎ１４４１ＢＡ

【作者名】
九条　ネギ

【あらすじ】
巷で噂の、『死』のリスクを負うゲーム。　そのゲームを知り、配信されてから一年の差を持ち、参加したプレイヤーである彼は、他から疎外されていた。
しかし、『ログアウト可能なのは一組だけ。　他は全て死ぬ』という情報を手にし、他の追随を許さぬ速さでプレイヤーの頂点に君臨した彼に、都合よく歩み寄るプレイヤー。　それを、彼は嘲笑する。
「お前ら、ずいぶん幸せな思考してるんだな？」

更新は遅いです。

ログナンバー：ゼロ（前書き）

何となく、書きたくなったので。
全てとはいわないけど人間って、都合良い生き物ですよね。

ログナンバー：ゼロ

ドズンッ。　そんな音と共に、木を這う蛇の頭にナイフが突き立てられた。

「ここに来て三年目か。　早いもんだ」

彼は木の幹から引き抜いたナイフを見て、ため息をついた。　その様子を背後から伺う影が一つ……それは、瞬く間も無く、彼に音も無く近寄ってくる。

「お前で何人目だ？　弱すぎるからパーティーは組まないって、言い出したのはお前だろ？」

「……」

そこにいたのは、大男。　それも、両手に大剣を握った怪力とでも言うべきだろうか。　それに対し、彼は全く臆することなく腰の剣に手を掛けた。

「俺じゃ弱すぎるんだろ？　他を当たれよ」

「ログアウトできるのは一組だけだからな、お前が居ると邪魔なんだよ！」

咆哮と共にその大剣を構え、彼に対して襲い掛かる！　が、一瞬の出来事だった。　彼の姿が消えたかと思うと、後ろに……真上に……足元に、正面に……男が振り下ろした大剣は確かに彼を捉えた。

だが、彼は二つに分かれると男の左右から、その手に握っていた剣を突き刺した。　彼の頭上に、『蜃気楼（ミラージュ）』の文字が出現する。

男の頭上に、今まで無かった緑色のゲージが出現し、それを左端

から少しづつ黒が侵食する。　痛みは無いようだが、その表情は見る見るうちに、恐怖に支配されていく。

「止めろ！　止めてくれ！　助けて！」

「……当然、断る。　ログアウトできるのは……一組だけだからな、お前が居ると、邪魔なんだよ」

彼は冷ややかに、大男に対して言い放つ。　ゲージが完全に黒一色に染まると、男はその場から姿を消した。

「で、他に死にたいのは？　隠れてるのは分かってるけど……今逃げるなら、見逃してやる」

ログナンバー：００１

最初は、僕も友達がほしかっただけだった。　クラスでは、口数も少なく無駄に長く感じる休み時間は寝たふりを決め込み、誰一人として話しかけてくる奴は皆無。　親の都合で転勤してきたのが中学三年生のときで、高校に直ぐ入るから平気だろうと高をくくっていたのだが、どうやら高校に入っても、人間という生き物は友人だとか、知人とか。　それが居なければ顔見知り同士でつるむらしい。

そんな中、言わずとも僕の居場所など無かった。　元来、僕は少数行動……前にいた所でも、多分無効が僕を友人と認識しているのが確実だったのは一人だけだ。　それも、男グループに入れなかった哀れな僕を、女グループに入れなかった哀れな彼女が助けてくれただけ。　向こうは、友人として接してくれたわけだ。

そんな中、学校で流行っていたオンラインゲームの話を聞いた。

やってみようと思ったわけだけど、なにをやればいいのか分からない。　ＰＣ検索にかけると、今一番有名どころが出た。

どうやら、今一番熱いゲームらしい。　『Ｔｈｅ　Ｓｉｘ　Ｄｅｖｉｌ』……マスクをつけてプレイする体感ＲＰＧでチートを極めた六人の魔王とプレイヤーが戦い、その六人の魔王を全てを倒せばクリアとなる。

中々、王道とも言うべきか。　迷わずそのゲームをダウンロードし、専用のマスクを購入。　装着して、それを起動する。

“初期設定を行います。　まず、プレイヤー名を設定してください”

そうだな、六人の魔王を倒すゲームだし……六に掛けてサタン？

いや、駄目だった。　既に誰かが使ってるし……どうすっかな。

サタンと入れた後、候補に連なる名前……どうやら、悪魔の名前

らしい。
その中に一つ“ジン”を選択した。
“職業設定を行います”
職業ね……悪魔が。　正直、どれでもいいな……。　ここは適当に、ランダム……お任せで。
“ｊｉｎｎに決定しました”
下に、説明が書きが出る。　意味は魔人。　今一実感がわかないが、尻尾生えた人とか、そんな感じか？　チラッと見た職業候補は、恐らく数千に上っている。　そんな中で剣士や魔道師など、ポピュラーなものもあれば、イレイザーなど意味が分からない人にはとことん分からない単語も混じっている。　その中で、決定されたこれは、果たして正しい選択だったのだろうか？
そんなことより、名前と職業が同じって何だよ？
“設定が完了しました。　ようこそＴｈｅ　Ｓｉｘ　Ｄｅｖｉｌへ”
目の前のウィンドウが閉じた。　視界に白い線が走り、それは見る見るうちに建造物の形を成し……気付いたときには、一人町の中に立っていた。　殆ど、誰もいない。
「……で、まずどうすんだろ？」
取り敢えず、ステータスを確認する。　ウェストポーチって、ずいぶんと身軽な格好なんだな……。　中身を確認し、何も無い事にへこむ。　当たり前といえば当たり前……最初から傷薬程度のもの

を持っているかと期待したが、初期装備も、確認して驚いた。　防御が上がるであろうジャケットだけで、攻撃できるような武器は皆無。　明らかに、これはサポートキャラ……。　ソロでの攻略は無理か……いや、どこかのギルドに加入すれば……。

ここでようやく、ボタンの付いた腕時計の存在に気が付く。　腕時計って……なんでだ？

恐る恐る手を伸ばし、適当なボタンを押す。　ウィンドウが出現し、自分の現在のステータスが表示された。

Ｎｅｍｅ：ジン
Ｌｖ：１
Ｏｃｃｕｐａｔｉｏｎ：ｊｉｎｎ
ＨＰ　：２０
ＭＰ　：３０
ＡＴＫ：１０
ＤＥＦ：２
ＩＮＴ：１５
ＭＧＲ：３
ＡＧＬ：１４
Ａｔｔｒｉｂｕｔｅ：Ｄａｒｋ
ＮＥＸＴ：１２０

サポートキャラ？　というには、攻撃に向いている気がする。だが、だからといってそれも決して高いわけではない。　肉弾戦をやれば恐らく即死……まさか、外れ引いた？　いや……まさかね。

取り敢えずギルドに入団すべきだろう。　そもそも、友達を作る目的で来たのだ、ソロプレイは駄目、絶対。　だが、それは相当難しかった。

このステータスを見たところで、一体どこに入るべきなのだろう？　戦士はない。　魔術師？　いや、それにしては魔法関係が弱い。

盗賊？　いや、素早くても攻撃がない。
取り敢えず、全部行った。　……全部門前払いを喰らった。　「弱すぎる」という理由で。
やっぱり、僕はぼっちが向いてんのかな？　仕方ないし、ソロプレイ？　いや、こういうのってボスとか集団で倒すように出来てんだろ？　だとすれば、ソロプレイなんて馬鹿げている。
いい加減、ログアウトしよう。　ここに居ても、やっぱり僕の居場所なんて無い。　ログアウトは……あれ？　どうやってやるんだろう？

「あんなの入れても足引っ張られるだけだよな。　ログアウトできるのは、一組だけだってのに」

確かにそんな言葉を、そのとき聞いた。　何で、僕は友達がほしいと思ったんだろう？　いい加減、気付いてもよかったんだ。　僕は、一人のほうが向いているって。　認めたほうが、よかったんだ。

＊＊＊　＊＊＊　＊＊＊

気付いてから、認めるまで。　大してかかることでもなかった。
それに、どうやら僕にはソロでやる才能というものがあったらしい。
目の前のオオダコの足をかわし、メダマにナイフを突き立てる！
そこで襲ってきた足を、二段ジャンプでかわす。　そして……蹴りを入れる。　攻撃は恐らく、当たれば即死……。
最初に行くべきダンジョンで、時間は掛かったが推奨レベル１０のボスをレベル２、ナイフ一本で撃破。　一気にレベルが８まで上がり、数種のスキルを入手した。　どれも、能力を上げるものばかりで、攻撃に向けるような派手なものはない。
条件付きスキルも一つ入手した。　『独り歩き』……どうやら、

ボスをソロで倒すのが条件だったらしいのだが……説明を見ても今一その効果が分からない。　帰りに適当な雑魚に使ってみるか。
オオダコの死体の足を切り分けると、入るだけポーチに詰め込んだ。　よし、今夜はたこ焼き決定。　そんなこんな、そんなところから三年が過ぎた。

三年後。

――ジン
Ｌｖ８９
ＨＰ　：８２９
ＭＰ　：９２０
ＡＴＫ：８２０
ＤＥＦ：５０
ＩＮＴ：８５７
ＭＧＲ：４０
ＡＧＬ：９８２

プレイヤーランキング
レベル：６／２５０００位
撃破数：４／２５０００位
所持スキル数最多プレイヤー。
撃破プレイヤー最多プレイヤー。
ギルド無所属。
称号『Ｔｈｅ　Ｓｉｘ　Ｄｅｖｉｌ』
現在地：魔王城

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n1441ba/

Solitude　Predator

2012年1月4日13時53分発行